

環境だより



環境課 ☎66♦1122

「♪カーラーズ〜なぜ鳴くの♪」と童謡でも歌われるくらいカラスは、私たちにとって身近な野鳥です。しかし、増えすぎたカラスがゴミをあさるなどして人間との間でさまざまな摩擦が生じています。

カラス対策
くわしたちのできること〜

人間の住んでいるところには、カラスのえさとなるゴミが豊富にあります。カラスは、その生ゴミを食べることにより増えてしまうのです。カラスの増えすぎを防ぐには、次のことに気をつけましょう。

(1)ゴミの出し方に注意する
・カラスにとって生ゴミは、

カラスの増えすぎは人間が原因！？



街中でよく見かけるハシブトガラス

ごちそうです。生ゴミを少なくする工夫をしましょう。

・カラスは、主に目で食べ物を探します。生ゴミを紙で包むなどして外から見えないようにしましょう。

(2)えさを与えない

・天敵のいない街中のカラスは、えさをあげることでも数が増え過ぎてしまいます。

カラスは、自然界で掃除屋の役目をしており、雑食性でいろいろなものを食べます。そのため、ふんには多くの植物の種が含まれ、自然林再生に貢献しています。なにかと悪い面ばかり強調されがちですが、自然界ではとても重要な役割を担っているのかも知れません。

消防最前線

Journal
of
Fire
Department
119

URL <http://www.city.gamagori.aichi.jp/syoubou/index.html>

消防署といえ、24時間勤務が当たり前でいつも電気がここのうと点いており、消防士たちも不眠不休で起き続けています。…というのにはさすがにキツイもの。オールナイト状態の人もまれにいますが、やはり消防士も人の子、適度な休息があつてこそ現場でも活躍できるというものです。

では、消防士の夜の生態はどうなっているのでしょうか。簡単にいうと夜は3交代制になっていて、とても安眠とはいえないほど細切れの睡眠をとりながら、ローテーションを組んで勤務しています。人それぞれに得意、苦手な時間帯はあるようですが、そこは昼夜を問わず活動する消防士

消防、夜の生態

たち。どんな時間の勤務でも視線はいつもギラギラしています。そして、仮眠中でもひとたび出勤指令が入れば、布団から跳ね起き、電光石火の早さで出勤していきます。

こうした不規則な勤務生活を支えるために、消防士にはある特技が備わります。それは超人的早寝です。

深夜の出勤から戻り、次の出勤準備を整えると、仮眠時間が残っている人は、また、布団に潜り込みます。そして、5秒とたたないうちに寝息が聞こえてきます。隣で休んでいる人も冗談かと思うほどの早業です。時には、いびきや寝言、歯ぎしりが聞こえてくることもあり。しかし、それらを気にすることなく、限られた仮眠時間の中で最大限に休息をとるために、消防士特有の生活のリズムと体質を手に入れるのです。

